



序 文

関西大学レスリング部

部長 高堂 俊 彌

このたび関西大学レスリング部の創立30周年を記念し、あわせて部誌を発刊するはこびにいたりましたことはまことにご同慶の至りに存じます。この機会に記念行事の企画・推進に献身的なご尽力をたまわりましたレスリング部OB会の役員諸氏ならびにご支援にあづかりました大学当局および関係各位に対しまして衷心より感謝申し上げます。

ふり返って30年前の創立期を思いおこしますと、敗戦直後の混乱と虚脱の中から、ようやく新生日本の芽生えが見えはじめつつあったとはいえ、なお物心両面においてきわめて貧しい状況のなかで、学生スポーツ再建の力強い胎動に呼応して、いち早く国際化時代の代表的スポーツであるレスリングの将来性に着目し、心ある斗士たちを募って旗揚げした松井清先輩をはじめとする創立者たちの労苦と努力をしのびながら、あらためてその功績をたたえざるを得ません。

こうしてわが国の戦後におけるアマチュアスポーツの再建と発展は、水泳とレスリングの活躍によって先導されましたことはご存知の通りでありますし、やがて国際舞台の上でも輝かしい記録を残したことはご記憶の通りであります。学内について申しますと、戦前からの伝統ある幾つかの運動部が、いまだ低迷しておりましたときに、わが部の澆冽とした清新の気とそのひたむきな斗志は、戦後の関大スポーツの立上りを刺激したことも事実でありました。

爾来、30年の間に、先輩たちの汗と涙の積み重ねによりまして学の内外において、自他ともに認めますような輝かしい実績と伝統が築かれたわけであります。こうした成果はひとり個人的な優秀選手のみによるものであったのではなく、これを盛りあげた全部員の結束や、一貫して強力な支援と指導の体制を引き継いでこられたOB会の熱意の結晶であり、これこそわがレスリング部の比類なき伝統であると自負しているところであります。

それにもかかわりませず、大学紛争を転機とした新しい大学とスポーツが建設されつつありますときに、わが部もまた再生のためのきびしい試練を経験しながらも、なおしばらくは不幸にして停滞の域にとどまっております。このさいわれわれは、あらためて創部の精神の原点に戻り、初心にかえって努力すべきことを痛感せずにはいられませんし、併せて先輩各位のいっそうのご鞭撻をお願いする次第であります。

ここに創部30周年を記念して祝意と謝辞を表しますとともにわれわれの決意を申し添えさせていただきます。